

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	佐藤 順子
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	都市博乙第483号
学位授与年月日	2023年3月23日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第2項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	居住地域の自然環境に対する住民の認識と地域満足度との関係分析－住民の幸福感と地域満足度向上に寄与する自然環境を活用したまちづくりに向けて－
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 佐土原 聡 横浜国立大学 教授 高見沢 実 横浜国立大学 教授 田中 稲子 横浜国立大学 准教授 吉田 聡 横浜国立大学 准教授 稲垣 景子

論文及び審査結果の要旨

本研究は、住民の自然環境に対する認識を、どのような自然環境がどのような幸福感に繋がるのか、という形で把握し、またそれらが住民の地域満足度にどの程度寄与しているのかを明らかにすることで、自然環境を活用したまちづくりに知見を提供することを目的とし、調査分析を行った。

第1章「研究の背景と目的」では、背景として我々が受けている自然環境から生態系サービスや、まちづくりを幸福度で評価する動きなどを整理し、自然環境を地域資源として幸福感から評価する必要性を述べた。また、自然環境及び地域資源に対する住民の認識や評価、地域満足度、幸福感に関する既往研究を調査・整理し、本研究の目的、研究の手順を述べた。

第2章「住民視点による地域資源の抽出－神奈川を対象として－」では、神奈川の住民にアンケート調査を実施し、住民視点による地域資源を抽出するとともに、どのような地域資源が住民に認識され、大切に思われているのか、また、その地域資源に対する幸福感に関する評価の分析を行った。その結果、自然環境が多くの人に認識され大切に思われている地域資源であること、都市部と郊外部では認識に差があることを確認した。

第3章「地域の自然環境と住民の認識に関する分析」では、衛星画像からアンケート回答者の居住地域の自然環境指標を作成し、地域の自然環境の違いによって、住民の自然環境に対する認識や地域資源（地域の宝）に対する評価に差があるかを分析した。その結果、自然環境を地域の宝として認識するか否かには、居住地域の自然環境の状況が影響していることを確認した。

第4章「自然環境が住民に与える幸福感と住民の地域満足度に関する分析」では、地域の宝に対する幸福感に関する評価が地域満足度へどのような影響を与えているのかを、共分散構造分析により定量的に分析した。その結果、「主体性」「安心感」「生活基盤」の幸福因子は地域満足度への寄与が大きいことなどが分かった。

第5章「他地域を対象とした調査分析」では、神奈川における分析結果が、他地域でも当てはまるのか検証するため、宮城と福岡において同様の分析を行った。その結果、いずれの地域でも自然環境は住民に認識され大切に思われていること、神奈川では高木植生などのまとまった緑地が多い地域、宮城や福岡では植林地・耕作地植生が多い地域で自然由来資源が評価されていることなどが分かった。

第6章「結論」では、本研究の成果のまとめ、今後の展望と課題について述べた。

以上のように本研究は、地域の自然環境が住民に与える幸福感と地域満足度との関係を定量的に分析し、成果は自治体等が自然環境を活用したまちづくりに向けて物理的な検討を進めるための知見を提供しているため、博士（工学）の学位請求論文として十分な価値を有すると認められる。なお、iThenticateによるチェックを行ったが論文剽窃等の問題は認められなかった。

(試験の結果の要旨)

令和5年2月8日午後4時30分より、建築学棟1階大会議室において、審査委員全員出席の下に、佐藤順子氏の学位論文公聴会を開催した。公聴会は60分余りにわたり、学位論文についての口頭発表および質疑応答が行われた。同日午後5時40分より同会議室において審査委員会を開催し、慎重審議の結果、本論文の内容は、博士(工学)の学位論文として十分な内容を有していることを審査委員全員一致で確認し、合格と判定した。

また、学位論文を中心とした質疑応答の内容から、これに関連する分野の科目についての専門的知見や能力などを確認し、博士(工学)の学位を得るにふさわしい学力を有すると判定した。

外国語の能力に関しては、英文論文

- ・ Junko Sato, Keiko Inagaki, Satoru Sadohara and Takahiro Tanaka : A Study on the Role Played by Local Nature for Residents, Proceedings of the 12th ISAIA, 2p., 2018.

を執筆・発表していることから、英語能力に関する学力が十分であることを認めた。

学位取得に必要な对外発表査読論文は1編以上となっているが、本論文の内容の一部を、査読付き論文

- ・ 佐藤順子, 稲垣景子, 佐土原聡, 田中貴宏 : 居住地域の自然環境に対する住民の認識と地域満足度との関係分析, 日本建築学会環境系論文集, 2023年3月掲載決定として発表しており、その条件を満たしている。

以上により、佐藤順子氏の最終試験は合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。